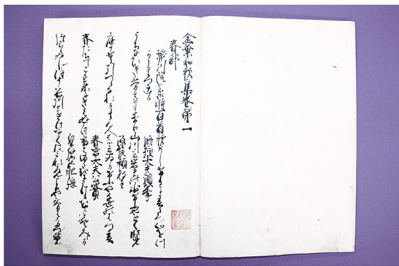


橋本公夏筆『金葉和歌集』1冊



前号において、『金葉和歌集』の流布本とも言える二度本（差し戻されて二回目に奏上した伝本）のうち、最も精選された形態を伝えるとされる伝二条<sup>にじょう</sup>為明筆<sup>ためあき</sup>『金葉和歌集』2帖を紹介したが、標記の伝橋本公夏筆<sup>はしもときよなつ</sup>『金葉和歌集』は、二度本の中でも最も収録歌が多く、未精選な状態（最も精選が進んでいないはやい段階の姿）を伝えると考えられている伝本で、総歌数は765首。665首を取める伝二条<sup>にじょう</sup>為明筆<sup>ためあき</sup>とは100首もの差がある。室町後期頃の書写と推定される比較的新しい写本ではあるが、『金葉和歌集』の撰集過程の一段階を伝える貴重な1本と言える。なお、本書には多くの切り出し歌（精選の過

程で除棄された歌）が含まれることから『新編国歌大観』の解題には「橋本公夏筆本拾遺」として底本の伝二条<sup>にじょう</sup>為明筆<sup>ためあき</sup>本（本学蔵）や三奏本に収載されない和歌70首が改めて掲出されている。

函架番号I-18。〔室町後期〕写1冊。装丁は袋綴。象牙色地金泥草花唐草刷表紙（26.5×19.0cm）。外題なし。料紙は緒紙。首遊紙1丁、墨付96丁、尾遊紙1丁。毎半葉12行（和歌1首1行書）。内題「金葉和歌集巻第一（～十）。奥書無し。用字、漢字・平仮名。なお、本書も赤羽淑名誉教授の解題を付して福武書店から翻刻が刊行されている（『金葉和歌集 公夏筆本』福武書店1967）。（文学部准教授 海野圭介）